

事業細目名	総合型地域スポーツクラブ活動基盤強化事業
事業名	サンクススポーツクラブの活動基盤強化
助成対象者の名称	サンクススポーツクラブ
事業の成果	<p>・サッカー:キッズから社会人・シニア・女子と全ての年代と男女のチームを継続できていること！北海道にサンクススポーツクラブのみで継続できていることが一番の成果である。また、高校生チームがクラブ初の北海道優勝を果たし全国出場を決めた。</p> <p>・高齢者の運動教室をフロアと水中の2種目実施:2年間クラブ独自で開催した成果で今年度からは行政からの依頼を受け、フロア&水中の健康運動教室を助成外で開催できていることが一番の成果、totoバスを活用し高齢者を各地区で乗降可能にし、65歳以上の高齢者が年間96回・合計1920人の参加者でした。</p> <p>・子どもの運動教室:例年3地区で開催していたものを、totoバスの活用で町を一つにつなげる意味と共に理想と現実のバランスを考え第2期より集中開催で実施！意外にもバス効果があったのか、過疎地区の子どもの参加が増えたこと。また、通年開催の要望が増加してきていること。</p> <p>・マラソン:元々多くはない参加者で隔週になりつつありますが継続出来ていること。次年度は上向きになるようアイデアをだしていく予定です。</p> <p>・フットサルクラブ:クラブで活用する施設の空き時間を利用しフットサルが大好きな女子が大勢参加してくれました。ただ、社会人が多く仕事や家庭の予定もあり参加者はさほど多くはありませんが、生涯スポーツという視点では非常に重要な活動ですので継続していきます。</p>
事業に対する評価	<p>小さなクラブが上記の活動を継続していることは成功だと感じています！成果と課題という視点では、各種目の交流会などを実施しいろんな要素をつなげることが更なる拡大につながります。次年度に実施し会員拡大と新種目の増加につなげていきたい。現在野球少年団との連携を調整中。</p> <p>[団体としての数値目標の達成度]</p> <p>新規種目3種目を目標としていたが、高齢者の水中運動1種目でした。ただ、26年度野球少年団の新規加入が内定しており、現在一緒に活動中。</p> <p>少年団や部活動加入参加者を50人増加予定でしたが、25年度の活動の成果とし26年度の野球少年団がチームでスポーツクラブの会員になる予定である。</p> <p>60歳以上の参加者を20人増加させることを目標でしたが、助成活動の成果で行政から依頼を受けtotoバスを利用し助成外での単独開催することができております。</p>
事業実施期間	平成 年 月 日～平成 年 月 日 (助成期間 年目)
活動地域	夕張郡栗山町 ※空知地域
活動拠点となる施設とその概要	<p>ふじスポーツ広場(多目的天然芝グラウンド):北海道夕張郡栗山町富士23番地5 栗山町スポーツセンター(総合体育館):北海道夕張郡栗山町中央3丁目310番地 しゃるる(総合福祉センター):北海道夕張郡栗山町朝日4丁目9番地36 その他 ※別紙施設一覧表参照</p>
運営委員会等の構成員とクラブ運営組織概要	<p>[役員] ・理事長:鈴木貴浩(常勤)・副理事長:大野一郎(常勤)・副理事長:坂井亨(非常勤)</p> <p>[運営部会] ・事業部:中谷浩二(体育指導委員)・立花翔(栗山町スポーツセンター長) ・専門部:大野一郎(NPO理事)・秋場龍二(サッカーシニア)・佐藤祐介(フットサル) ・財務部:宇部隆行(日本高圧コンクリート㈱部長)・尾田隆行(サッカー女子) ・イベント部:坂井亨(理事・商工会議所青年部)・木村真哉(サッカー)・萩原督人(サッカー) ・メディカル:手代木直美(総合)</p> <p>[事務局] ・クラブマネジャー:鈴木貴浩(常勤) ・サブマネジャー:大野一郎(常勤)</p> <p>運営委員会への地域住民の参画(有)</p>
団体の規模(当該年度の実績)	<p>○定期的な活動(スポーツ教室)の種目数 6 種目</p> <p>○実施回数(全種目合計) 1117 回</p> <p>○平均参加人数 22 人 (総参加人数 25223 人)</p> <p>○世代別参加者の有無 <input checked="" type="checkbox"/> 0～19歳 <input checked="" type="checkbox"/> 20～39歳 <input checked="" type="checkbox"/> 40～59歳 <input checked="" type="checkbox"/> 60歳～</p>
実施した事業の内容	<p>助成3年目を終え、2年続けた助成金を活用させていただいた高齢者の運動教室を、フロアと水中の2種目の運動でtotoバスを活用し発展できたこと。クラブの中心的種目のサッカーが中学⇒高校と続けてくれた過疎の子供たちが北海道優勝という偉業を成し遂げてくれたこと、助成を活用して活動を始めた小学生チームの北海道大会優勝や3位入賞など、上記の事業の成果で明記している種目の他種目多世代老若男女を問わない活動を実施継続しています。</p>
備考	